

## 平成 28 年度在宅療養推進事業実施結果（平成 28 年 12 月末現在）

<p>●在宅療養の推進</p> <p>高齢者等が在宅で安心して療養できる体制を構築する。</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養希望者数の増加</li> <li>・在宅療養の実現が可能であると思う区民の増加</li> <li>・在宅看取り率の増加</li> </ul>	<p>【所管】</p> <p>地域医療課 高齢者支援課</p>
--	--	-------------------------------------

## 1 多職種連携強化

※ ①・・・28 年度から新たに実施する取組、【在宅】・・・在宅療養専門部会、【認知】・・・認知症専門部会

課題	取組	実施結果	成果指標	担当・所管
①医療と介護の連携	事例検討会・交流会 4 回／年 事例集の作成  多職種連携研修 2 回／年	<p>【実施回数】3 回（4 地区各 1 回）</p> <p>【参加者数】延 252 名／292 名（参加率 86.3%）、傍聴 119 名 計 371 名（27 年度：4 回実施 453 名）</p> <p>【参加職種内訳】ケアマネジャー 33%、薬剤師 22%、看護師 17%、医師・歯科医師 4% 等</p> <p>【実施テーマ】胃ろうの造設可否、多職種が関わるタイミング、視力低下独居の方への支援</p> <p>【満足度】76%が「非常に満足」「満足」と回答</p> <p>【他職種の理解度】81%が「他職種の理解が深まった」と回答</p> <p>【実施回数】 一回</p> <p>※今後は事例検討会・多職種交流会等、類似事業との調整を検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携に対する意識</li> </ul>	<p>【在宅】</p> <p>地域医療課</p>
②病院と在宅スタッフとの連携	訪問看護同行研修  ①退院支援の課題抽出	<p>出前講座 ※要望により、特例として 1 か所実施</p> <p>【実施病院数】1 病院</p> <p>【参加者数】40 名</p> <p>同行訪問</p> <p>【実施病院数】4 病院（27 年度：3 病院）</p> <p>【参加者数】30 名（27 年度：18 名）</p> <p>【満足度】93%</p> <p>【訪看業務に対する理解度】80%</p> <p>振返研修</p> <p>【実施病院数】1 病院（27 年度：1 病院）</p> <p>【参加者数】12 名（うち訪問看護ステーションから 1 名参加）</p> <p>【満足度】100%</p> <p>【訪看業務に対する理解度】100%</p> <p>【意見交換会開催回数】8 回（4 地区ごと 2 回ずつ）</p> <p>【参加職種】病院・在宅医・訪看・居宅・高齢者相談センター</p> <p>【参加者数】各回 9～11 名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護業務に対する理解度</li> </ul>	<p>【在宅】</p> <p>地域医療課</p>
③情報共有	情報共有ツールの活用  連携シートの活用	<p>医師会において、平成 28 年 1 月から試行的に実施。</p> <p>ICT ツール（MCS）を使用するうえで多職種が感じている意見（肯定的・否定的含む）について、在宅療養専門部会委員で共有した。</p> <p>高齢者相談センターおよび居宅介護支援事業所にて平成 27 年 11 月から 10,000 部配布中。</p> <p>【周知】区民（区報、窓口、講演会等啓発事業で周知）、区内医療機関、民生委員（見本・案内を配付）</p> <p>【寄せられた声】「認知症の方に限らず高齢者に必要」（病院連携室）「災害時に活用できる」（事連協）</p> <p>「自分は必要となる」「一人暮らし、出歩くのも困難だけど使いたい」（区民）</p> <p>「配布場所を拡大できないか」「お薬手帳との組み合わせはグッドアイデア」（薬剤師）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査報告書の作成</li> <li>・満足度（医療介護従事者、患者）</li> <li>・連携における利用状況</li> </ul>	<p>【在宅】</p> <p>地域医療課</p> <p>【認知】</p> <p>高齢者支援課</p>

2 サービス提供体制の充実

課題	取組	実施結果	成果指標	担当・所管
①人材の確保・育成	ケアマネジャー向けの在宅療養に関する研修	地域カンファレンス ※練馬、光が丘、石神井、大泉の4圏域で実施 【参加者数】総計 164名 (内訳) 練馬:45名、光が丘:42名、石神井:32名、大泉:45名 【満足度(点数化)】 79点 地域カンファレンス全体報告会 【参加者数】122名 【満足度(点数化)】 85点	・満足度	【在宅】 練馬区介護人材育成研修センター 高齢者支援課
	⑨若年性認知症支援力向上研修	【実施回数】1回 【参加者数】26名 (ケアマネジャー12名 介護職12名 生活相談員1名 サービス提供責任者1名) 【満足度】 100% (研修の理解、仕事への活用いずれも)	・満足度	【認知】 高齢者支援課 練馬区介護人材育成研修センター
②24時間体制・後方支援病床の確保	後方支援病床の確保	【利用者数】 延117件 (27年12月末:48件)	・利用した在宅医の負担軽減度	【在宅】 地域医療課
③相談・診療体制の充実	医療と介護の相談窓口	在宅療養に必要な医療と介護のコーディネートのための医療・介護連携推進員の配置 (H27～) 【医療・介護連携推進員】高齢者相談センター本所 4名 【医療相談実績】4月～12月 2,324件 【退院カンファレンスへの参加実績】4月～12月 76件	・医療・介護連携チームの編成数	【在宅・認知】 高齢者支援課
	認知症相談事業の充実 <b>別紙 1</b>	専門医等による訪問相談および医療・介護のコーディネートのための認知症地域支援推進員の配置 (H27～) 【認知症地域支援推進員】 高齢者相談センター本所 5名 高齢者支援課在宅療養係 1名 【認知症相談事業協力医】 10名 【認知症相談実施】 4所×9回 【相談件数】4月～12月 28回 72件 【訪問相談の実施(初期集中支援チーム)】4月～12月 17件(医師同行5件内数)	・医療や介護サービスにつながった件数	【認知】 高齢者支援課
④地域資源情報の提供環境の充実	地域資源情報の構築 <b>別紙 2</b>	医療と介護の情報サイトの開設 【掲載情報】全種介護保険サービス事業所(約1000件) 病院・診療所(約500件) 訪問歯科診療所(約90件) 訪問薬局(約120件) 地域包括支援センター(29件) 生活支援情報(約600件)	・満足度	【在宅・認知】 高齢者支援課 地域医療課
⑤介護老人保健施設の調査研究	⑨介護老人保健施設ワーキンググループの開催	事前調査 【実施回数】1回 【参加職種】病院(看護師、MSW、リハ職)、居宅、在宅支診、訪看、高齢者相談センター 【参加人数】9名 ワーキンググループ 【実施回数】3回 【参加老健】区内全12法人(理事長・事務長・理学療法士・ケアマネジャー等) 【参加者数】各回11名～12名	・調査研究報告書の作成	【在宅】 地域医療課 介護保険課

3 区民への啓発・家族への支援

課題	取組	実施結果	成果指標	担当・所管	
①区民への啓発	講演会の開催  大規模（全区対象）：1回／年 小規模（区内4地区対象）：4回	大規模 【参加者数】152名（27年度：142名） 【満足度（参考になった）】94% 【在宅療養希望者数】110名（79%） （「悩んでいる」「考え中」等の回答を除けば、92%の方が在宅療養を希望）  小規模 【総計】参加者270名、満足度92%、在宅療養希望者数168名/75%（無回答を除けば82%） 【参加者数】第1回：81名、第2回：71名、第3回：64名、第4回：54名 【満足度（参考になった）】第1回：96%、第2回：100%、第3回：86%、第4回：81% 【在宅療養希望者数】第1回：35名/71%、第2回：52名/81%、第3回：45名/73%、第4回：36名/75%	・在宅療養希望者数	【在宅】 地域医療課	
	認知症講演会の開催  認知症フォーラム：1回／年 <b>別紙 3</b> 認知症地域講座：4回／年 若年性認知症講演会：1回／年 認知症の人の生活モデル講座：2回／年	延参加者数 174名  認知症フォーラム 1回 【参加者数】61名 【満足度（良かった）】 93%  認知症地域講座 3回 【参加者数】88名 【理解度（わかりやすかった）】 93% 若年性認知症講演会 1月28日予定 【認知症の人の地域生活】 生活モデル講座にて地域密着型サービスを紹介 1回25名 【理解度（参考になった）】100%	・在宅療養希望者数		【認知】 高齢者支援課
	区民啓発ガイドブックの活用 ・在宅療養ガイドブック  ・認知症ガイドブック	在宅療養ガイドブック 【増刷部数】12,000部 【出張勉強会】1回（1町会）  認知症ガイドブック 【発行部数】30,000部（28年3月～） 【配布先】(1) 高齢者向けの区立施設 (2) 医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション、病院 (3) 町会・自治会 【学習会】11回（地域福祉団体等）	・認知症に対する理解度 ・認知症に対する理解度 ・若年認知症に対する理解度 ・認知症の生活モデルに対する理解度	【在宅・認知】 地域医療課 高齢者支援課	
②地域資源情報の提供環境の充実	地域資源情報の構築（再掲） <b>別紙 2</b>	医療と介護の情報サイトの開設 【掲載情報】全種介護保険サービス事業所（約1000件） 病院・診療所（約500件） 訪問歯科診療所（約90件） 訪問薬局（約120件） 地域包括支援センター（29件） 生活支援情報（約600件）	・在宅療養に対する理解度 ・認知症に対する理解度		
③地域における支え合いの強化	認知症の人や介護家族への見守りの推進	【認知症サポーターの養成と活用】認知症サポーター養成 4月～12月 83回 2,695名 ステップアップ講座参加者 4月～12月 2回 91名 ステップアップ修了者中、区見守り事業等への協力者 累計12名	・満足度	【認知】 高齢者支援課	
④在宅生活支援の充実のための取組	介護なんでも電話相談 <b>別紙 4</b>	毎水曜日実施 4月～12月 39回 111件	・事業への認知症サポーターの参加		【認知】 高齢者支援課
	介護家族の学習・交流会	2日制3回 85名 随時家族会パートナーへの支援	・満足度 ・満足度（負担感軽減） ・家族会や高齢者相談センターの利用		
	認知症の人の生活モデル講座（再掲）	【認知症の人の地域生活】 生活モデル講座にて地域密着型サービスを紹介 1回25名 【理解度（参考になった）】100%	・認知症に対する理解度 ・認知症の生活モデルに対する理解度		

4 在宅療養の現状の経年的把握

課題	取組	実施結果	成果指標	担当・所管
①在宅療養資源に対する課題の把握	医療・介護・福祉資源調査の実施 ・関係者へのアンケート 1回/3年 (在宅療養推進事業計画に併せ実施)	※平成 29 年度の実施を想定	・医療・介護資源の増加数、増加割合 ・在宅療養の充足度の変化	【協議会】 地域医療課
②看取りの実態の把握	死亡小票分析の実施 1回/1年	<p>【分析年次】平成 26 年～平成 27 年</p> <p>【分析対象】人口動態調査死亡小票、患者調査、医療施設静態調査</p> <p>【分析項目】・自宅での看取り件数の変化 ⇨ 在宅療養の普及度          ・入院患者の住所地の把握 ⇨ 病床看取り可能数の推計          ・在宅療養支援診療所・病院の届出状況等の把握 ⇨ 在宅支援診療所等の資源量          等々</p> <p>【在宅看取り数（率）】2013 年から 2015 年までで 24 件（0.6%）増加          【在宅看取り診療所数（率）】2013 年から 2015 年までで 7 件（9.5%）増加</p>	・在宅看取り数、看取り率の増加割合 ・在宅看取り診療所数、増加割合	【協議会】 地域医療課